

参考資料3 区民意見(1) アンケート調査結果

目次

1. 調査概要	2
1.1 目的.....	2
1.2 調査方法.....	2
1.3 事業者向けアンケート.....	3
1.4 教育機関向けアンケート.....	4
1.5 児童・生徒向けアンケート.....	4
1.6 回収状況.....	5
2. アンケート設問内容	6
2.1 区民向けアンケート.....	6
2.2 外国人向けアンケート.....	7
2.3 事業者向けアンケート.....	8
2.4 教育機関向けアンケート.....	8
2.5 児童・生徒向けアンケート.....	9
3. アンケート結果概要	9
4. アンケート結果のまとめ	13
4.1 「生物多様性」に対する意識.....	13
4.2 生物多様性地域戦略や生きものと共生するまちづくりへの関心.....	16
4.3 戦略に期待すること.....	17
4.4 身近な自然環境に対する意識.....	17
4.5 外来生物への意識.....	20
4.6 暮らしと生物多様性に関わる意識.....	22
4.7 身近な環境問題.....	23
4.8 環境活動への意識.....	23
4.9 良好な環境づくりの取り組み主体の考え.....	25
4.10 区民・外国人の環境活動への意識と活動状況.....	25
4.11 事業者における活動状況.....	28
4.12 教育機関における活動状況.....	32
4.13 小学校5年生における自然との関わりや意識.....	36
4.14 中学校2年生における自然との関わりや意識.....	40

1. 調査概要

1.1 目的

港区生物多様性地域戦略を策定の基礎資料とするため、生物多様性、自然環境及び環境施策についての区民等の意識及び課題を把握するとともに、戦略実施の周知及び参加意識の向上を図り、戦略策定における意見を広く収集することを目的とし、区民、事業者、教育機関及び区立小・中学校児童・生徒を対象とした意識調査を実施しました。

1.2 調査方法

区民向けアンケート

区民向けアンケートの実施状況は以下のとおりです。

タイトル	港区の自然環境と暮らしについてのアンケート調査	
対象者及び対象人数	区民	2,000人
	外国人	200人
	環境課事業の参加者	138人
調査手法	区民	配布：郵送 回収：返信用封筒（郵送）
	外国人	配布：郵送 回収：返信用封筒（郵送） ※外国人用の設問を設定したうえで、英訳した調査用紙を送付。
	環境課事業の参加者	配布：郵送 回収：返信用封筒（郵送）
抽出方法	区民	住民基本台帳より無作為に抽出
	外国人	外国人名簿より無作為に抽出
	環境課事業の参加者	環境課事業参加者名簿より全員を抽出
調査期間	区民	平成24年10月1日（月）～平成24年10月15日（月）
	外国人	平成24年11月15日（木）～平成24年11月30日（水）
	環境課事業の参加者	平成24年10月1日（月）～平成24年10月15日（月）

1.3 事業者向けアンケート

事業者向けアンケートの実施状況は以下のとおりです。

タイトル	自然環境と事業活動についてのアンケート調査	
対象者及び対象数	大企業	351法人
	みなと環境にやさしい事業者会議	67法人
	商店街会長	58人
	環境課事業の参加企業	101法人
調査手法	大企業	配布：郵送 回収：返信用封筒（郵送）
	みなと環境にやさしい事業者会議	配布：メールリングリスト 回収：返信用ファイル（返信メールに添付）
	商店街会長	配布：郵送 回収：返信用封筒（郵送）
	環境課事業の参加企業	配布：郵送 回収：返信用封筒（郵送）
抽出方法	大企業	東京証券取引所及び大阪証券取引所に上場しており、港区に所在地を置く事業者を抽出
	みなと環境にやさしい事業者会議	みなと環境にやさしい事業者会議参加企業名簿より抽出
	商店街会長	すべての港区商店街連合会加盟店会の会長を抽出
	環境課事業の参加企業	環境課事業参加企業名簿より抽出
調査期間	大企業	平成24年10月1日（月） ～平成24年10月15日（月）
	みなと環境にやさしい事業者会議	
	商店街会長	
	環境課事業の参加企業	

※大企業とみなと環境にやさしい事業者会議の両方に該当する企業は、みなと環境に優しい事業者会議として扱いました。

1.4 教育機関向けアンケート

教育機関向けアンケートの実施状況は以下のとおりです。

タイトル	港区の自然環境と環境教育についてのアンケート調査	
対象者及び対象数	国立・私立大学（短期大学を含む）	9校
	国立・都立・私立高等学校	18校
	区立・私立中学校	22校
	区立小学校	19校
	区立・私立幼稚園	26園
	区立認可・私立保育園	19園
	都立・私立特別支援学級	2校
調査手法	区立教育機関	配布：交換便 回収：返信用封筒（交換便）
	区立以外の教育機関	配布：郵送 回収：返信用封筒（郵送）
抽出方法	港区に存在するすべての教育機関を抽出	
調査期間	区立教育機関	平成24年10月15日（月） ～平成24年10月30日（火）
	区立以外の教育機関	平成24年10月1日（月） ～平成24年10月15日（月）

1.5 児童・生徒向けアンケート

児童・生徒向けアンケートの実施状況は以下のとおりです。

タイトル	遊びや自然についてのアンケート調査	
対象者及び対象人数	区立小学校5年生	19校：1,124人
	区立中学校2年生	10校：636人
調査手法	配布：学校経由 回収：返信用封筒（交換便）	
抽出方法	港区に存在するすべての区立小・中学校のうち、小学校5年生及び中学校2年生の全生徒	
調査期間	平成24年10月15日（月）～平成24年11月30日（金）	

1.6 回収状況

各種アンケートの回収状況は以下のとおりです。

種類	対象	配布数	回収数	回収率
区民向け	区民	2,000	359	18.0%
	外国人	200	9	4.5%
	環境課事業の参加者	138	46	33.3%
区民向け全体		2,338	413	17.7%
事業者向け	大企業	351	54	15.4%
	みなと環境にやさしい事業者会議	67	11	16.4%
	商店街会長	58	23	39.7%
	環境課事業の参加企業	101	40	39.6%
事業者向け全体		577	128	22.2%
教育機関向け	大学	9	2	22.2%
	高校	18	4	22.2%
	中学校	22	12	54.5%
	中高一貫校	—	5	—
	小学校	21	19	81.0%
	幼稚園	26	22	76.9%
	保育園	19	12	16.4%
	その他（特別支援養護学校）	2	1	50.0%
教育機関全体		117	77	62.4%
児童・生徒向け	小学校	1,124	822	73.1%
	中学校	636	533	83.8%
児童・生徒向け全体		1,760	1,355	77.0%

※中高一貫校の回収数は、中高一貫校として返信のあった外数です。

2. アンケート設問内容

各アンケートの設問一覧を以下に示します。

2.1 区民向けアンケート

設問番号	設問形式	設問内容
問 1	単数回答	港区の自然環境に対する意識
問 2	複数回答	身近に緑や生きものを感じられる環境
問 3	自由記述	最近みられなくなった生きものや自然の様子
問 4	複数回答	港区の自然環境を改善するためには
問 5	自由記述	港区の身近な生きもの
問 6	単数回答	外来生物問題に対する認識
問 7	自由記述	身近にみられる外来生物に対する認識
問 8	単数回答	「生物多様性」という言葉の理解
問 9	自由記述	「生物多様性」とかかわりがあると考えていること
問 1 0	単数回答	「生物多様性」を守ることにに対する認識
問 1 1	単数回答	戦略づくりへの参加意識
問 1 2	自由記述	戦略づくりへの期待
問 1 3	複数回答	港区の環境に関する施設や施策に対する認識
問 1 4	複数回答	優先的に取り組んでほしい環境施策
問 1 5	単数回答	野生の生きものと共生できる環境づくりに取り組む上で、重要だと思う主体
問 1 6	単数回答	環境の保全と生活の便利さの優先度
問 1 7	単数回答	暮らしと野生の生きものの距離感
問 1 8	単数回答	暮らしの中で感じる、自然資源に対する意識
問 1 9	自由記述	地域で感じている環境問題
問 2 0	複数回答	環境に関連した活動経験の有無及び参加を希望する取り組み
問 2 1	単数回答	環境に関連した活動に参加しない理由
問 2 2	自由記述	環境に関連した活動の参加者を増やすためには
問 2 3	自由記述	参加または主催している環境に関連した活動

2.2 外国人向けアンケート

設問番号	設問形式	設問内容
問 1	単数回答	港区の自然環境に対する意識
問 2	単数回答	自国と比べたときの港区の自然環境の豊かさ
問 3	複数回答	身近に緑や生きものを感じられる環境
問 4	自由記述	最近みられなくなった生きものや自然の様子
問 5	複数回答	港区の自然環境を改善するためには
問 6	自由記述	港区の身近な生きもの
問 7	単数回答	外来生物問題に対する認識
問 8	単数回答	自国で外来生物として問題になっている生きもの
問 9	自由記述	身近にみられる外来生物に対する認識
問 1 0	単数回答	「生物多様性」という言葉の理解
問 1 1	自由記述	「生物多様性」とかかわりがあると考えていること
問 1 2	単数回答	「生物多様性」を守ることにに対する認識
問 1 3	単数回答	戦略づくりへの参加意識
問 1 4	自由記述	戦略づくりへの期待
問 1 5	複数回答	港区の環境に関する施設や施策に対する認識
問 1 6	複数回答	優先的に取り組んでほしい環境施策
問 1 7	単数回答	野生の生きものと共生できる環境づくりに取り組む上で、重要だと思う主体
問 1 8	単数回答	環境の保全と生活の便利さの優先度
問 1 9	単数回答	暮らしと野生の生きものの距離感
問 2 0	単数回答	暮らしの中で感じる、自然資源に対する意識
問 2 1	自由記述	地域で感じている環境問題
問 2 2	複数回答	環境に関連した活動経験の有無及び参加を希望する取り組み
問 2 3	自由記述	環境に関連した活動の情報入手方法
問 2 4	単数回答	環境に関連した活動に参加しない理由
問 2 5	自由記述	環境に関連した活動における外国人の参加者を増やすための支援
問 2 6	自由記述	自国における環境に関連した活動や取組
問 2 7	自由記述	参加または主催している環境に関連した活動

2.3 事業者向けアンケート

設問番号	設問形式	設問内容
問 1	複数回答	港区の環境に関する施設や施策に対する認識
問 2	単数回答	「生物多様性」という言葉の理解
問 3	単数回答	「生物多様性」と事業活動の関連性
問 4	単数回答	戦略づくりへの関心
問 5	複数回答 自由記述	生物多様性を保全するために取り組んでいる、または取り組みたい内容
問 6	複数回答	生物多様性を保全するための取り組みの動機
問 7	単数回答	生物多様性に関する取り組みについての考え方
問 8	複数回答	生物多様性に関する取り組みを進める上での課題
問 9	複数回答 自由記述	生物多様性に関する取り組みを進める上での必要な支援
問 10	単数回答	生物多様性に関する取り組みをアピールする意識
問 11	自由記述	ピーアールしたい生物多様性に関する取り組み
問 12	自由記述	生物多様性に関する取り組みを進める上での意見や要望

2.4 教育機関向けアンケート

設問番号	設問形式	設問内容
問 1	単数回答	「生物多様性」という言葉の理解
問 2	単数回答	環境教育の重要性に対する意識
問 3	複数回答 自由記述	取り組んでいる、または取り組みたい環境教育の内容
問 4	複数回答	環境教育を進める上での課題
問 5	複数回答 自由記述	生物多様性に関する取り組みを進める上での必要な支援
問 6	単数回答	環境教育をアピールする意識
問 7	自由記述	ピーアールしたい生物多様性に関する取り組み
問 8	単数回答	外来生物に関する教育の有無
問 9	単数回答	外来生物を教材として使用する際の考え方
問 10	複数回答	港区の環境に関する施設や施策に対する認識
問 11	複数回答	今後、優先的に取り組んでほしい環境施策
問 12	単数回答	生きものと共存するまちづくりに対する関心
問 13	自由記述	環境教育に取り組む上での意見や要望

2.5 児童・生徒向けアンケート

設問番号	設問形式	設問内容
問1	自由記述	好きな遊び
問2	複数回答 自由記述	これまでにしたことがある、これからしてみたい屋外での遊びや自然体験
問3	自由記述	港区で大切にしたい自然のある場所とその理由
問4	自由記述	20年後、港区がどうなっていると思うか
問5	単数回答	「生物多様性」という言葉の理解

3. アンケート結果概要

アンケート結果の概要を以下に示します。

■生物多様性への意識

区分	結果概要
生物多様性の言葉の認知度	区民よりも事業者・教育者で高い。区民では言葉自体が浸透していない。事業者・教育者でも、本来の意味までは十分に理解されていない。 また小学校では6割、中学校では3割の認知度であった。
関わりのある生物多様性に対する理解	供給サービスに対する意識が高い。 その他の生態系サービスへの意識が低い。 正しい理解が十分になされていない。
生物多様性（環境教育）の重要性	多くの区民、教育機関が、生物多様性を守ることや環境教育への重要性を感じている。 企業では、生物多様性と事業活動との関連が十分に認知されていない。

■戦略への意識

区分	結果概要
戦略への関心	戦略づくりへの関心は高く、区民が参加できる場を設定する必要がある。
戦略に期待すること	自然に近い公園、自然を増やすこと、環境教育をのぞむ声などがあつた。

■身近な自然環境への意識

区分	結果概要
港区の自然の豊かさ	港区は自然が豊かであると6割の区民が感じている。
身近に自然を感じられる場所	公園・庭園、街路樹をはじめとして、さまざまなみどりから自然を感じている。
港区の自然環境の改善に際して望むもの	様々な観点で望まれているが、とくに古い大木の保存、街路樹の増加、生物生育生息空間として適した公園の増加が望まれている。
以前いたが見かけなくなったと感じる生きもの	水辺の生きものが多く、水辺環境の減少による影響が表れている。
身近な野生の生きもの	カラス、スズメなどの野鳥が多い。

■外来生物への意識

区分	結果概要
外来生物問題の認知度	9割の区民が外来生物について聞いたことがあり、認知度は高い。しかし、それが問題となっていることは、約5割の区民には理解されていない。
身の回りで見かける外来生物	アメリカザリガニやアカミミガメが主に認知されている。
教育機関において外来生物について教える機会	6割の教育機関が外来生物について教える機会があり、小学校、中学校においてとくに多い。
教育機関における教材としての外来生物の扱い	教材として外来生物を使わないようにしている教育機関はわずかで、約6割の教育機関では扱いについて意識されていない。

■暮らしと生物多様性に関わる意識

区分	結果概要
環境保全と生活の便利さの優先度	6割の区民が環境保全を優先する考えを持っている。
他地域からの自然の恵みへの意識	8割の区民が暮らしを支える自然の恵みを意識している。
身近な環境問題	ごみ問題、大気汚染、水質汚染に関わること、自然環境や動植物に関わるが多い。
暮らしと野生の生きものの距離感	9割の区民が区内に生きものがみられる環境があることを望んでいる。

■ 区民の環境活動への意識

区分	結果概要
優先的に取り組んでほしいこと	まちの美化や生活環境の保全、公園や道路、河川沿いなどでのみどりの創造、ヒートアイランド対策がとくに多い。
良好な環境づくりの取組の主体	行政が最も多く、次いで区民、専門家が多かった。
これまでに参加したことがある活動	庭やベランダでの緑化、清掃美化活動、環境に配慮した製品・商品の優先的な購入といった、生活圏における活動が多くみられた。
これから参加してみたい活動	これまでに参加したことがある活動と同様に、生活圏内での活動への関心が高いが、ビオトープづくりや里山・里海の保全活動等の自然に関わる活動への興味も高い。
参加しない理由	参加・実施するための情報がない、時間がかけれられないが多い。
参加するための工夫	積極的なピーアール活動に関わる回答が最も多く、親子参加型のイベントも多くみられた。
参加または主催している環境に関連した活動	清掃活動に関わる主催者が多くみられた。

■ 事業者における活動状況

区分	結果概要
生物多様性の保全のために取り組んでいること	環境保全活動が最も多い。
これから取り組みたいこと	材料・原料調達時の配慮や第三者が実施している保全活動への参加が多い。
取組の動機	企業の社会的責任や企業のイメージ戦略が多い。
取組への姿勢	生物多様性の保全に対して7割の事業者が積極的な姿勢を示している。
取組における課題	専門知識を持った人材の不足が最も多いが、課題は人手・費用・情報の不足など多岐にわたる。
必要な支援	専門家の協力、港区の生きものや環境に関する情報提供等の知識や情報の提供、地域やボランティア団体との提携を望む声が多かった。

■教育機関における活動状況

区分	結果概要
環境教育として取り組んでいること	緑のカーテンの育成、地域の環境美化活動等、身近な場所での活動が多かった。
これから取り組みたいこと	生物多様性や環境をテーマとした教材の利用や研究が多かった。
取組における課題	専門知識をもった人材の不足が最も多くみられた。
必要な支援	専門家による出前授業、港区の環境に関する情報提供など、情報や知識の支援、地域やボランティア団体との提携を構築するための支援が多かった。

4. アンケート結果のまとめ

ここでは、区民・外国人・事業者・教育機関・児童（小学5年生）・生徒（中学2年生）の6区分の対象から得られた結果を、設問内容に応じて整理します。

※ここでは、日本人国籍の区民を「区民」、外国人国籍の区民を「外国人」と表現します。

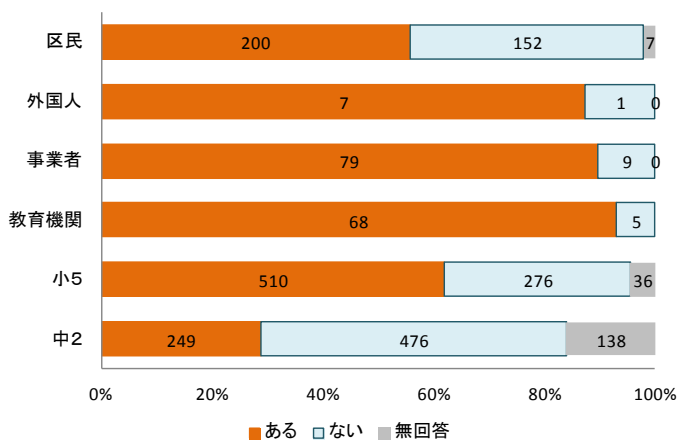
4.1 「生物多様性」に対する意識

4.1.1 生物多様性という言葉の認知度

○全体

これまでに「生物多様性」という言葉を聞いたり、またはその文字を見たことがありますか？

(単数回答)



生物多様性という言葉は、区民で約5割、事業者および教育機関で約9割において認知されていました。

外国人は、回答数が少なく、この分野に関心の高い方が回答したとも考えられます。

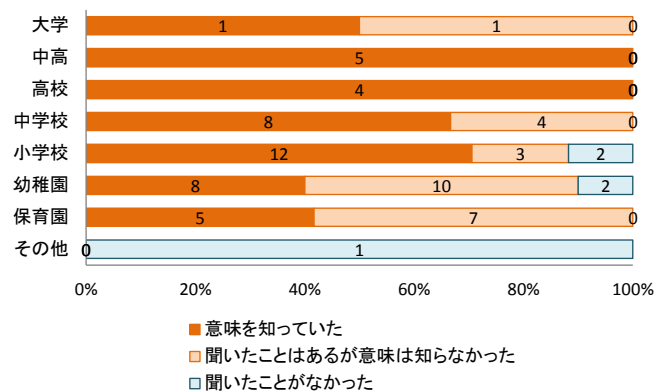
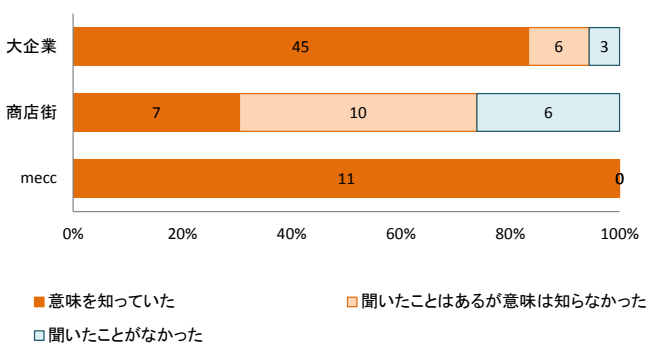
生物多様性という言葉は、区民においては十分に周知されていません。

事業者や教育機関では、言葉の認知度は高いものの、生物多様性の意味までは十分に理解されてはいないと言えます。

また、とくに中学生の認知度が低いことが課題です。

○教育機関

○事業者



4.1.2 関わりのある生物多様性に対する意識

○区民・外国人

あなたにとってかかわりのある「生物多様性」を挙げてください。

(自由記述)

カテゴリ	抽出数	
	区民	外国人
生態系サービス	69	6
うち「食」についての回答	(41)	(2)
うち「すべてのもの」を示す回答	(11)	(1)
動植物・自然・生態系	60	3
つながりがない・よく分からない	19	1
その他	31	0
合計	179	10

区民回答人数：359人（有効回答数：169回答）

外国人回答人数：9人（有効回答数：8回答）

生物多様性という広い概念のうち、生態系サービスに関わる回答が多くみられました。なかでも、「食」をはじめとして、薬やエネルギーといった供給サービスを連想する回答が多くみられました。次いで、個々の生物や食物連鎖などの生態系を特徴づけるキーワードを挙げた回答が多くみられました。

このことから、多くの区民にとって、生物多様性との接点としてこれらの切り口がわかりやすいと言えます。

一方、大気循環等の基盤サービス、地域伝統等の文化的サービスや、ヒートアイランド緩和等の調整サービスなどへの生態系サービスへの意識は低いと言えます。

また、犬、猫等のペットを含む身近な動植物を挙げるなど、偏った概念として理解され、暮らしを支える基盤としての生物多様性の理解が十分に浸透していないようです。

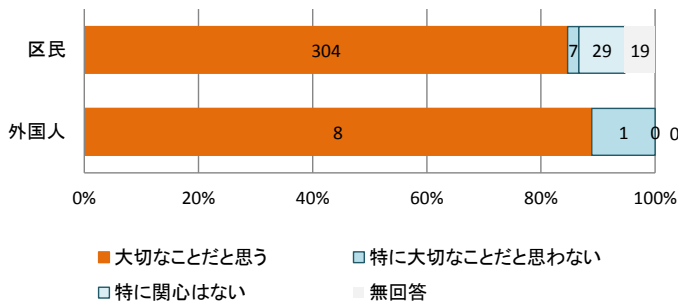
また、「質問についてよくわからない」、「つながりがよくわからない」といった回答も多くみられました。

外国人も区民と同様の傾向がありました。

4.1.3 生物多様性（環境教育）の重要性

○区民・外国人

「生物多様性」を守ることにどう思いますか？
(単数回答)



8割以上の区民が、生物多様性を守ることが重要と考えています。外国人も同様の傾向があります。

事業者では、事業活動と関連があり重要と考えているとの回答は約4割でした。

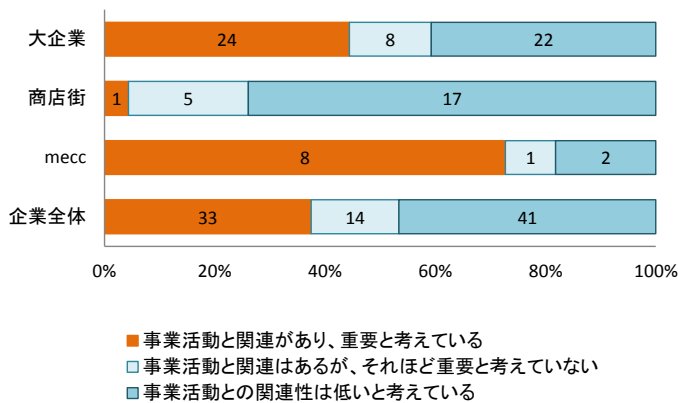
教育機関では、ほとんどの回答者が環境教育が重要と捉えていることがわかりました。

事業者では、生物多様性との事業活動との関連が十分に認知されていないと言えます。

○事業者

生物多様性の保全と持続可能な利用について、
事業活動との関連性

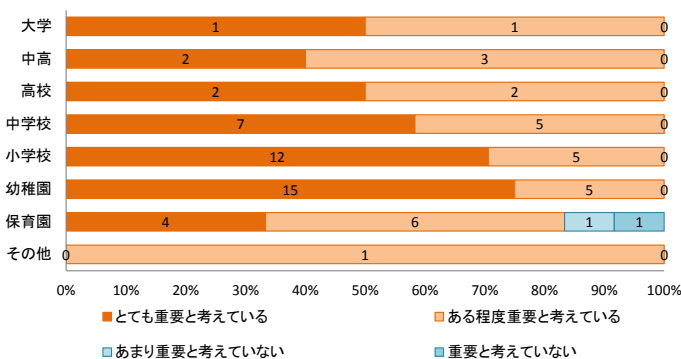
(単数回答)



○教育機関

環境教育をどの程度重要と考えているか

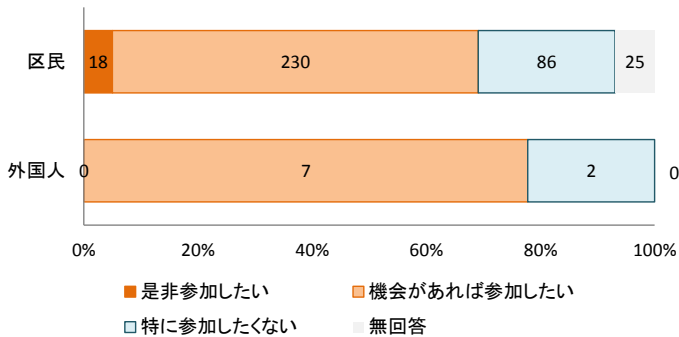
(単数回答)



4.2 生物多様性地域戦略や生きものと共生するまちづくりへの関心

○区民

港区の生物多様性地域戦略づくりへの参加への希望
(単数回答)



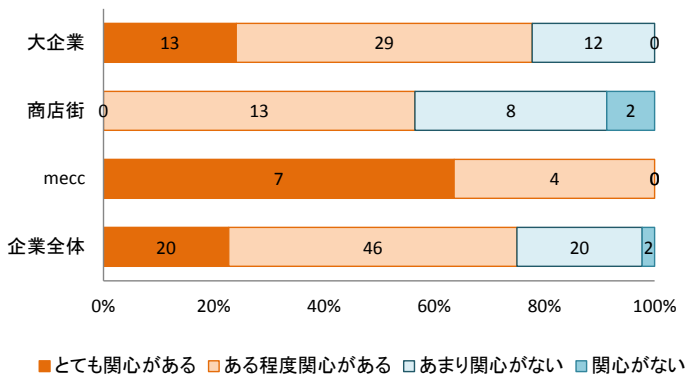
区民では、約7割が生物多様性地域戦略の策定に対して関心があり、「機会があれば参加したい」が多くを占めました。

事業者では、7割以上が、生物多様性地域戦略の策定に対して関心がありました。

教育機関では、8割以上が生きものと共存するまちづくりへの関心がありました。

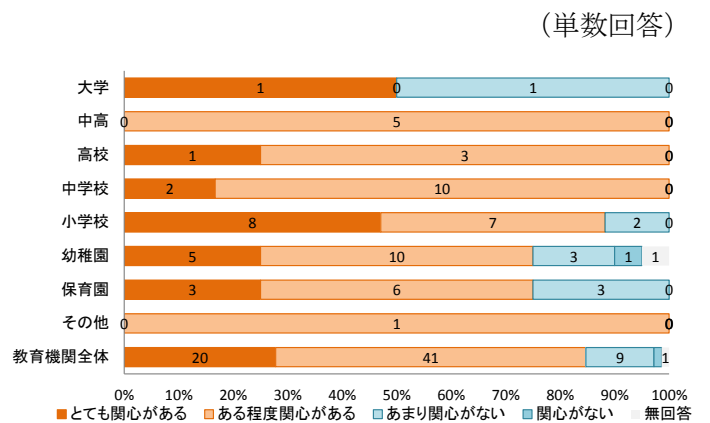
○事業者

生物多様性地域戦略に対する関心の程度
(単数回答)



○教育機関

「生きものと共存するまちづくり」の取り組みについての関心の程度
(単数回答)



4.3 戦略に期待すること

○区民

(自由記述)

カテゴリ	抽出数
自然の保全・創出	35
緑化・公園整備	21
環境教育	13
区民・企業参加型	12
その他	80
合計	161

※区民回答人数：359人（有効回答数：130回答）

最も多かった回答は「自然保全・創出」にかかわるもので、人工的な公園ではなく、自然に近い公園や自然そのものを望む回答が多くみられました。

緑化や公園整備、環境教育についても多くの回答がありました。

一部の関心のある人だけでなく、地域に根ざした住民参加型の戦略に期待する回答もみられました。

その他では、都市の利便性と自然保全とのバランスに着目した回答や、特記することはないが戦略を策定することについて期待しているという応援の回答もありました。

【回答を一部抜粋】

「土」を大事にマンション等の屋上、ビルの屋上等々、緑化と共に大切な土を守って欲しいと思います。
(70歳以上 女性)

いろいろな植物にふれられる環境を残して欲しい。(30歳代 女性)

田植えや野菜作りに参加出来、収穫して食べる ・きれいな河川づくり ・港区内にあるスポット巡り
(神社・寺・美術館など) ・住む街の整備→花や緑のある暮らし、カラスの減少に努力する、など、
上記で可能なもの(有効なもの)はツアーで体験する (40歳代 女性)

4.4 身近な自然環境に対する意識

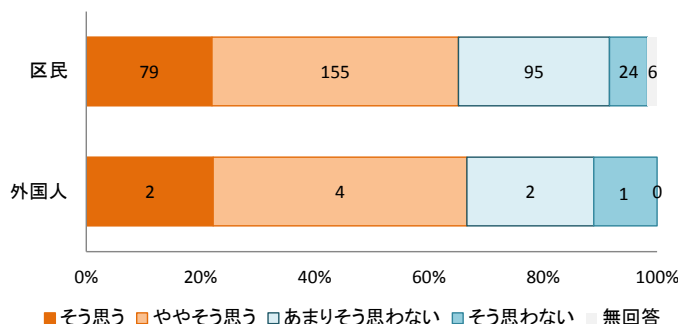
4.4.1 港区の自然の豊かさ

○区民・外国人

港区は、自然環境が豊かだと思いますか？

(単数回答) 約6割の区民が、港区は自然環境が豊かであると回答しました。

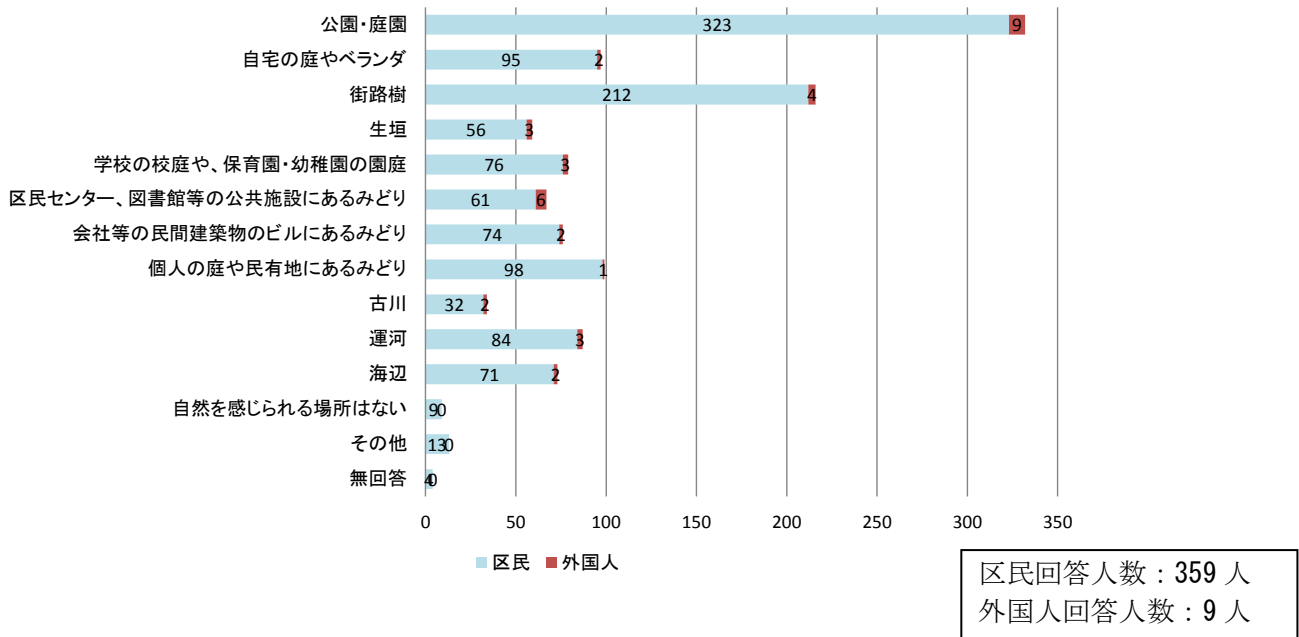
外国人も同様の傾向がありました。



4.4.2 身近に自然を感じられる場所

○区民・外国人

(複数回答)

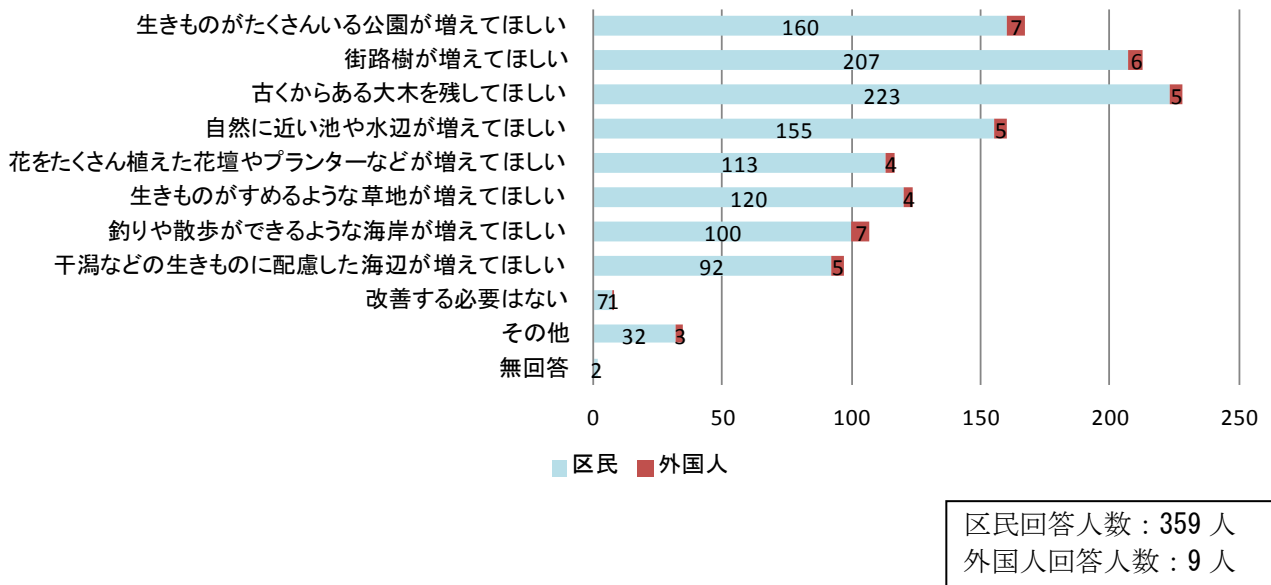


港区で身近に自然を感じられる場所としては、公園・庭園や街路樹が多くあげられました。

4.4.3 港区の自然環境の改善に際して望むもの

○区民・外国人

(複数回答)



自然環境を改善する必要はないという回答は少なく、さまざまな側面で改善が望まれています。とくに、古い大木の保存、街路樹の増加、生物生育生息空間として適した公園の増加が多く望まれていました。

外国人でも同様の結果でしたが、釣りや散歩ができるような海岸が増えてほしいという回答が多い傾向がありました。

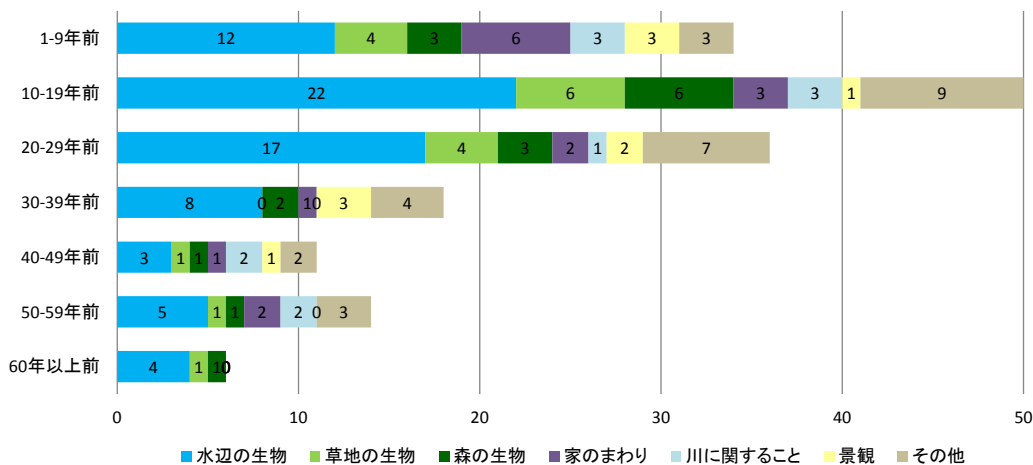
4.4.4 以前いたが見かけなくなったと感じる生きもの

○区民

(自由記述)

カテゴリ	抽出数
水辺の生きもの	78
草地の生きもの	19
樹林の生きもの	19
庭や家のまわりの生きもの	16
川に関すること	11
景観に関すること	11
その他	30
合計	184

※区民回答人数：359人（有効回答数：144回答）



見かけた年代とその生きものの関係

トンボ・カエル・ザリガニなどの水辺の生きものに関わる回答が約4割を占めました。草地の生きものについては、タンポポやカマキリ、トカゲなどがあげられました。樹林の生きものについては、セミについての回答が多くを占めていました。庭や家のまわりの生きものについては、ヤモリやツバメ、ヘビなどがあげられました。川に関することについては、運河や小川に小魚やザリガニなどがいたことなどがあげられました。景観に関することについては、草むらがあったことや土の道があったことなどがあげられました。

【回答を一部抜粋】

「15年くらい前にはいろいろなトンボが家のまわりに居ましたが、最近はほとんど見ません。」
(男性 70歳以上)

「33年くらい前にはふくろうがみられた。」(女性 70歳以上)

「70年くらい前には小川に水すまし、タガメ等、田圃等作業手伝われよく見掛けたのち農薬散布で生きものの姿が激減した。今思えば懐しい限りです。」(女性 70歳以上)

4.4.5 身近な生きもの

○区民

(自由記述)

種名	抽出数
カラス	121
スズメ	113
セミ	99
ハト	77
トンボ	51
チョウ	45
カエル	36
アリ	26
ネコ	25
カメ	22
その他	640
合計	1,255

全体で 140 種類の単語が抽出され、そのうち表に示す種は、とくに多かったものです。

有効回答者からは平均で約 4.6 種類の回答を得られています。全体では平均で約 3.5 種類でした。1 人あたりの最大回答数は 24 種類でした。

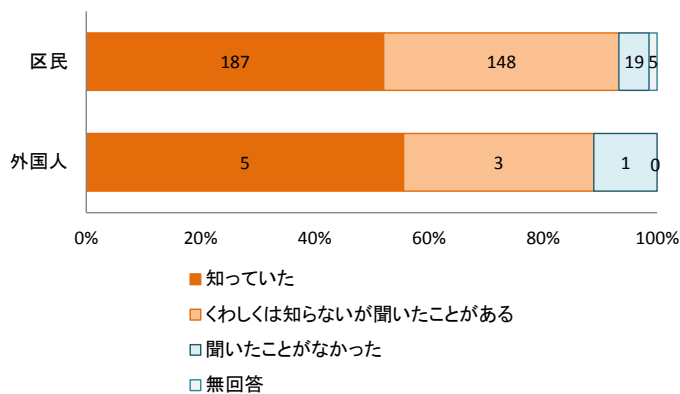
※区民回答人数：359 人（有効回答数：269 回答）

4.5 外来生物への意識

4.5.1 外来生物問題の認知度

○区民・外国人

(単数回答)



約 9 割の区民が外来生物について聞いたことがあり、5 割が内容も知っていました。

外国人も同様の傾向があり、また、9 名中 6 名が自国において問題になっている生物がいると認識していました。

外来生物問題への認知度は高いと言えます。

4.5.2 身の回りで見かける外来生物

○区民

(単数回答)

種名	抽出数
アメリカザリガニ	43
ミドリガメ (アカミミガメ)	36
ブラックバス	13
ハクビシン	7
カメ	5
セイヨウタンポポ	4
ヒメダカ	4
ブルーギル	4
インコ	3
ブタクサ	3
その他	36
計	158

アメリカザリガニとミドリガメの回答がとくに多く、身近な外来生物の代名詞といえます。

ハクビシンは7件抽出されていますが、この種を外来生物として扱うかどうかは諸説があります。

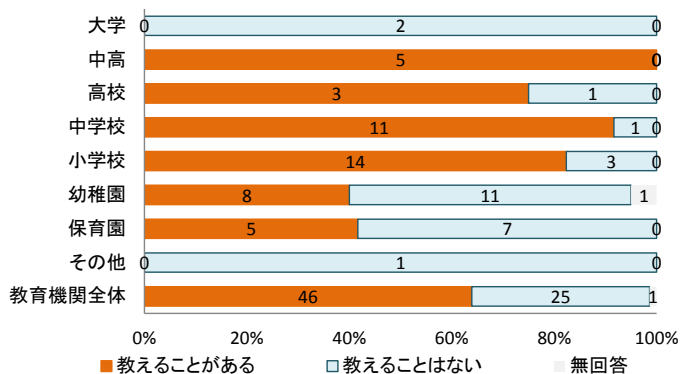
※区民回答人数：359人（有効回答数：95回答）

※抽出された単語：41個

4.5.3 教育活動における外来生物問題への意識

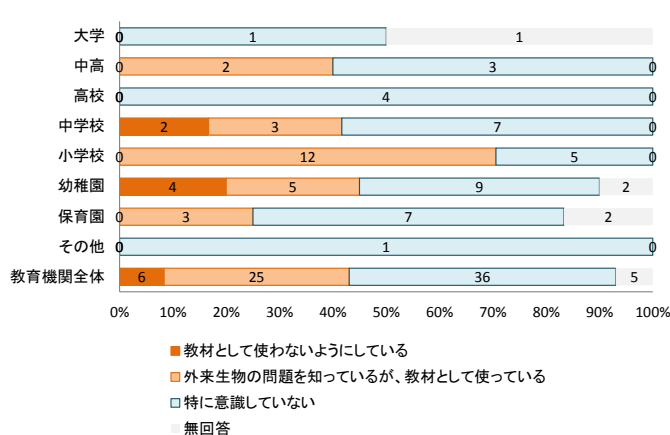
○教育機関

教育活動（授業や課外活動）の中で外来生物について教える機会の有無 (単数回答)



○教育機関

教材として外来生物を使うことについての考え方 (単数回答)



約6割の教育機関で外来生物について教える機会があり、小学校～高校でとくに多いことがわかりました。

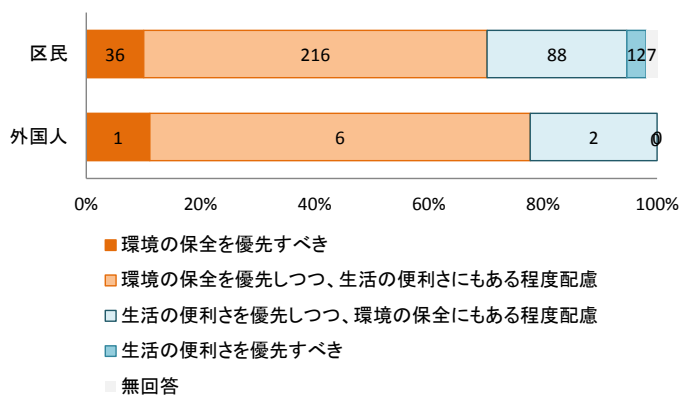
また、外来生物を教材として扱うことに対して、約5割の教育機関で、とくに意識をしていないということがわかりました。

4.6 暮らしと生物多様性に関わる意識

4.6.1 環境保全と生活の便利さの優先度

○区民・外国人

(単数回答)



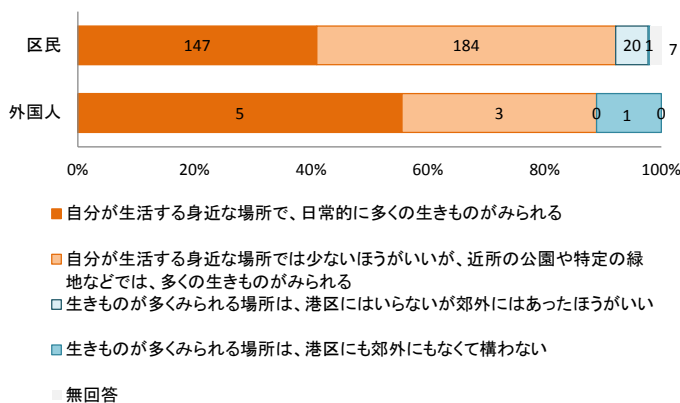
6割の区民が環境の保全を優先しつつ、生活の便利さにもある程度配慮するべきであると回答しました。

環境保全への意識は高いと言えます。

4.6.2 暮らしと野生の生きものの距離感

○区民・外国人

(単数回答)

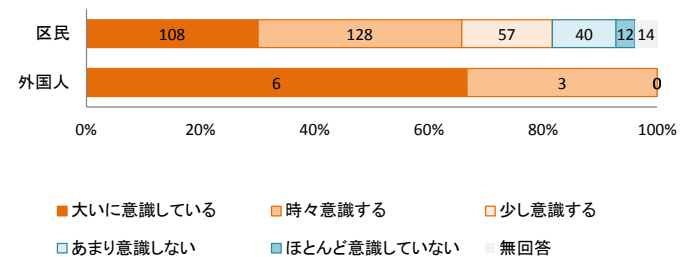


約9割の区民が、港区内に多くの生きものがみられる環境を望んでいることがわかりました。

4.6.3 他地域からの自然の恵みへの意識

○区民・外国人

(単数回答)



約8割の区民が、日々の暮らしのなかで、他地域からの自然の恵みを意識していることがわかりました。

4.7 身近な環境問題

○区民

(自由記述)

カテゴリ	抽出数
ゴミ問題・大気汚染・水質汚染など	139
自然環境や動植物にかかわること	70
交通にかかわること	49
気象にかかわること	40
その他	115
合計	413

※区民回答人数：359人（有効回答数：215回答）

ゴミ問題、大気汚染、水質汚染といった廃棄物関係の回答が最も多くみられました。

街路樹の整備や自然環境の整備、カラスや地域ネコなどの動物の問題を指摘する回答も多くみられました。

交通にかかわることでは、自動車と自転車についての回答が多くみられました。

気象にかかわることでは、ヒートアイランド現象や温暖化についての回答が多くみられました。

その他では、ビルの開発や喫煙、景観破壊についての回答が多くみられました。

【回答を一部抜粋】

「自然の風がほしい。自然の土が見たい。青い空、雲それ自然の雨。」（70歳以上 男性）

「たとえば元麻布にある元保育園の土地が、現在空地になっている。この様な場所は児童公園などではなく「生物多様性」基地としてどんどん自然にもどしてほしい。」（70歳以上 男性）

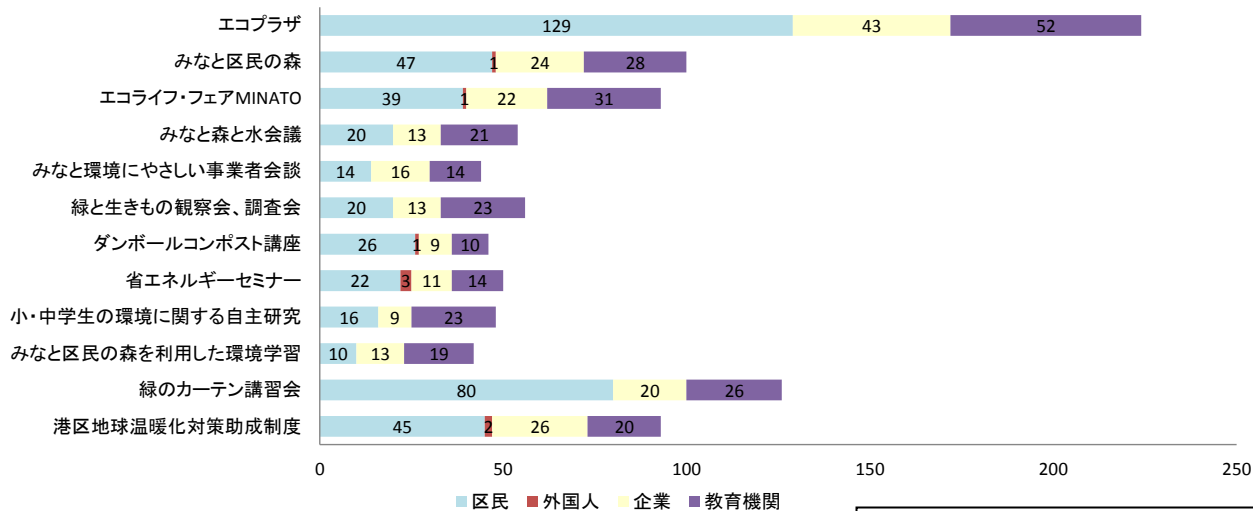
「緑が少ない。カラスやハトなどのフン被害がある。車の排気ガス、騒音。」（30歳代 女性）

4.8 環境活動への意識

4.8.1 港区の環境に関する施設や施策等について、知っているもの

○区民・外国人・事業者・教育機関

(複数回答)



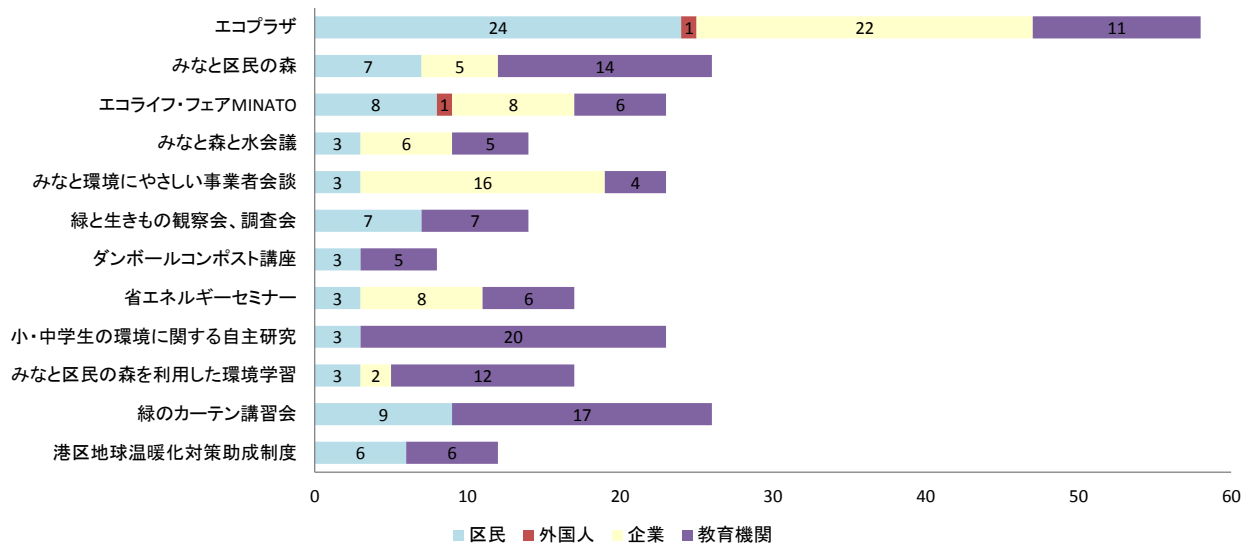
区民回答人数：359人
 外国人回答人数：9人
 事業者回答法人数：88法人
 教育機関回答校数：77校

エコプラザ、緑のカーテン講習会、みなと区民の森の順で、認知度が高いことがわかりました。

4.8.2 港区の環境に関する施設や施策等について、参加・利用したことがあるもの

○区民・外国人・事業者・教育機関

(複数回答)



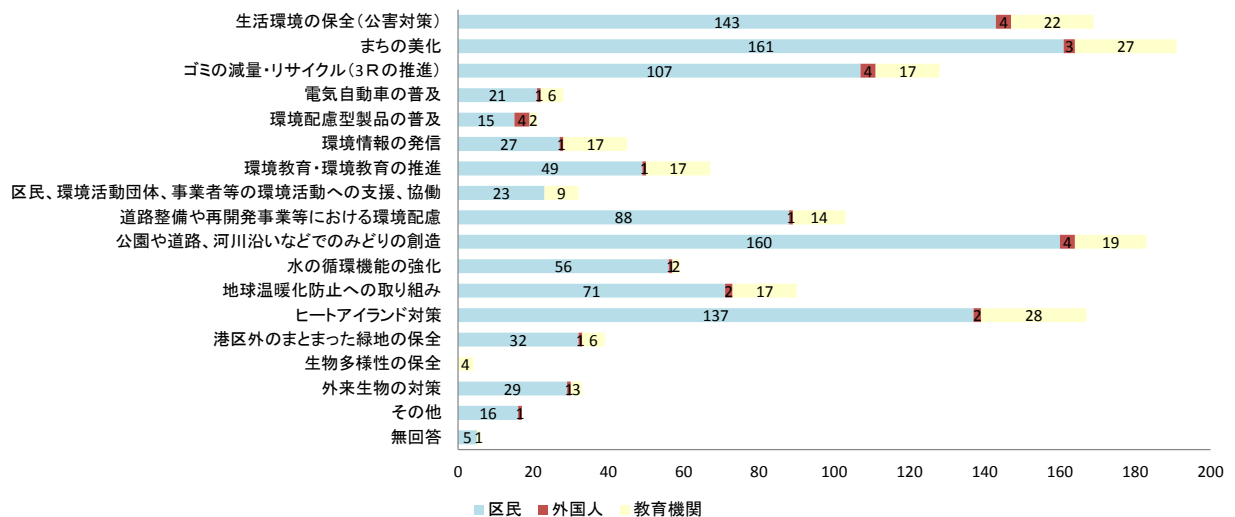
エコプラザの利用頻度が高いことがわかりました。

区民回答人数：359人
 外国人回答人数：9人
 事業者回答法人数：88法人
 教育機関回答校数：77校

4.8.3 優先的に取り組んでほしいこと

○区民・外国人・教育機関

(複数回答)



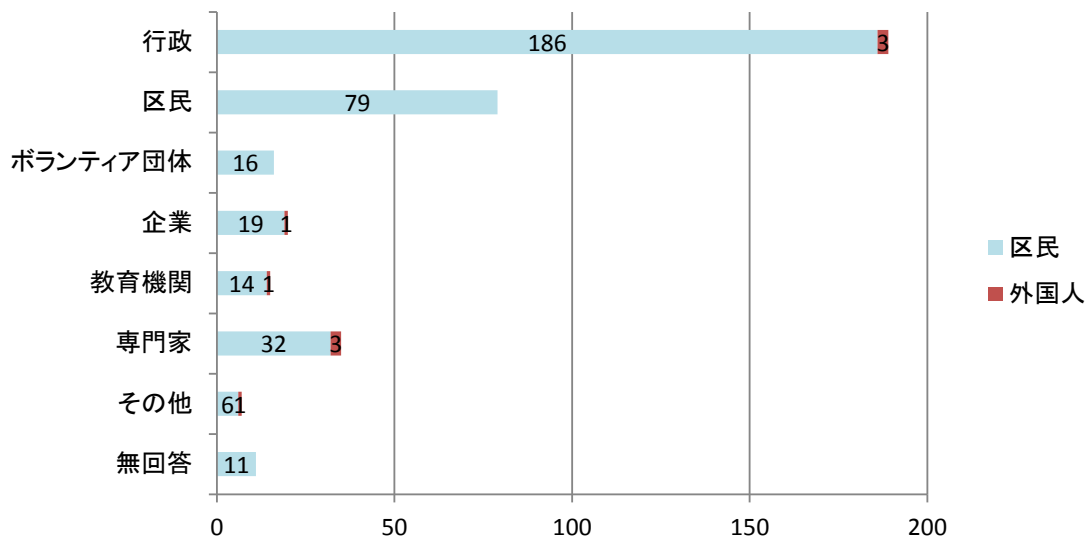
区民回答人数：359人
 外国人回答人数：9人
 教育機関回答校数：77校

港区に優先的に取り組んで欲しいことは、まちの美化、公園や道路、河川沿いなどでのみどりの創造、公害対策やヒートアイランド対策など、身近な住環境の改善に関わることが多くみられました。

4.9 良好な環境づくりの取り組み主体の考え

○区民・外国人

(単数回答)



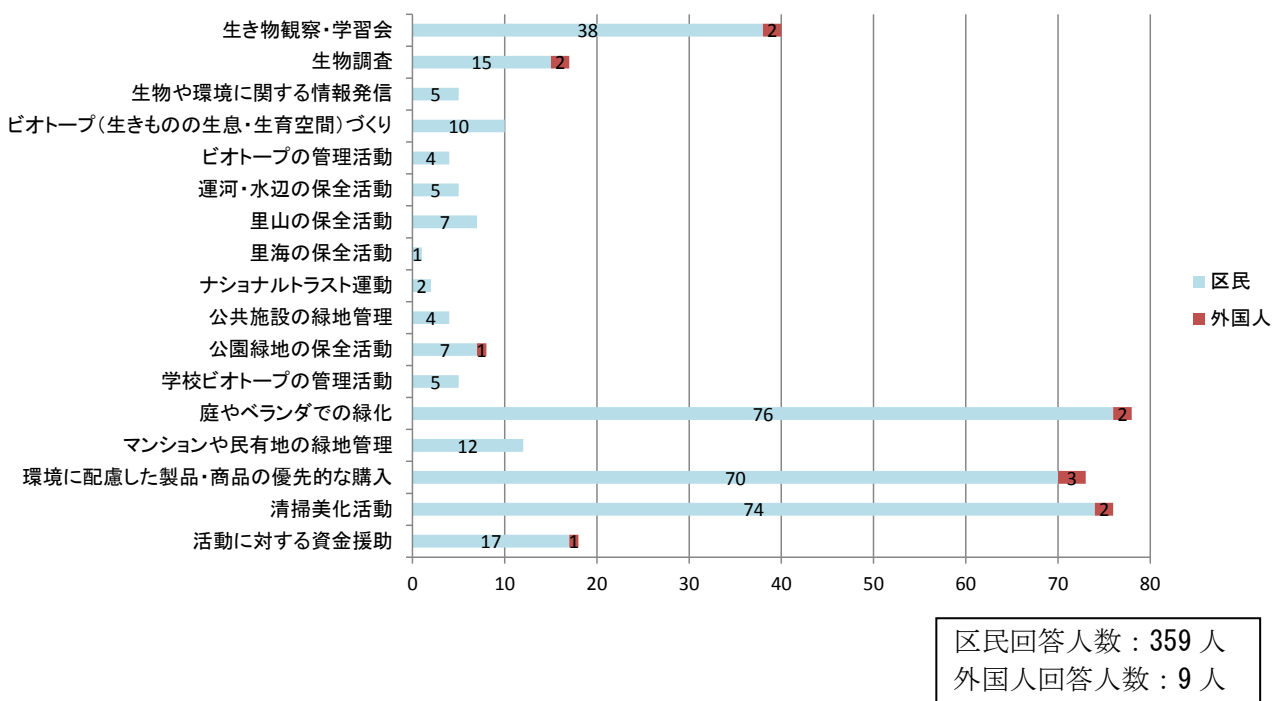
良好な環境づくりの取り組み主体として、行政が重要であるとの回答が最多でした。

4.10 区民・外国人の環境活動への意識と活動状況

4.10.1 これまでに参加したことのある活動

○区民・外国人

(複数回答)

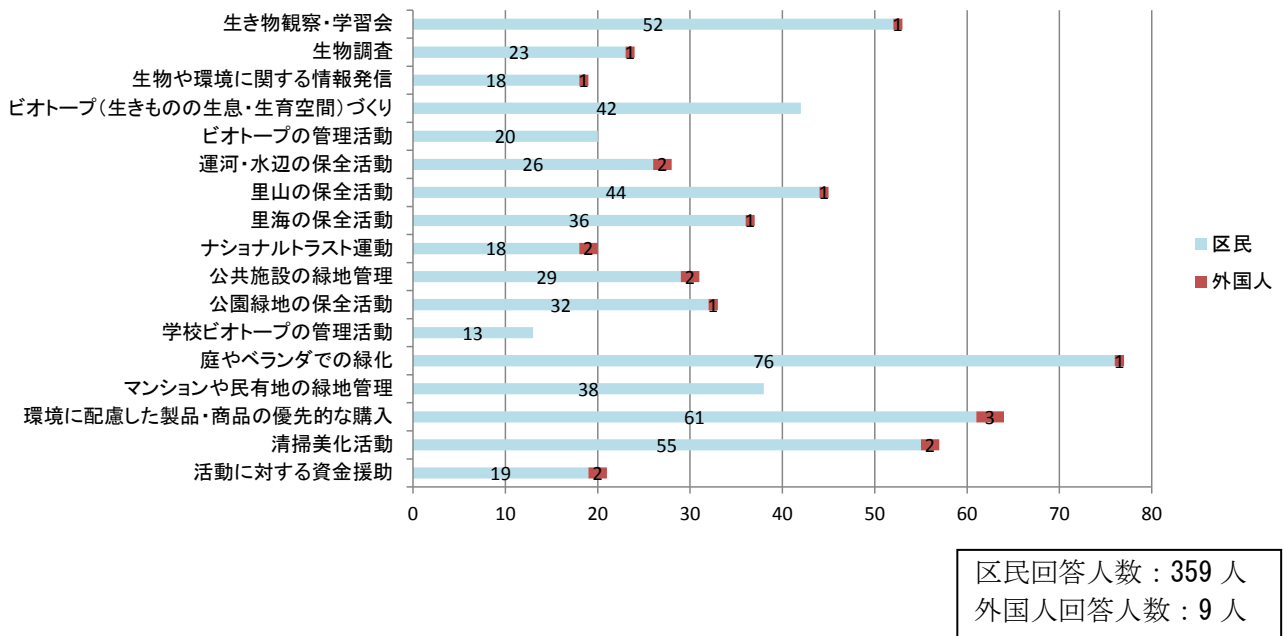


これまでに参加したことのある活動は、庭やベランダでの緑化、清掃美化活動、環境に配慮した製品・商品の優先的な購入といった、生活圏における活動が多くみられました。

4. 10. 2 これから参加してみたい活動

○区民・外国人

(複数回答)

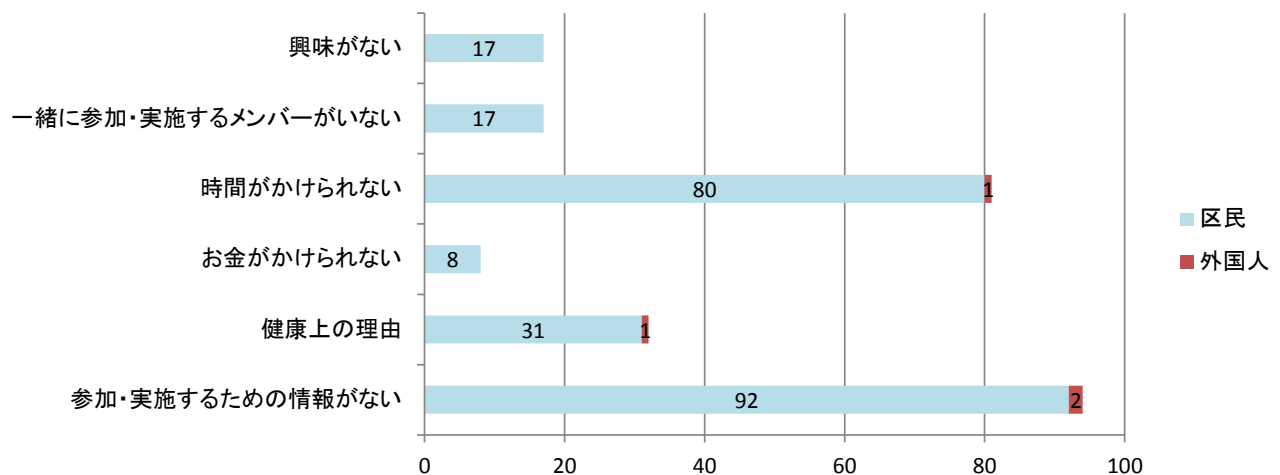


これから参加してみたい活動は、庭やベランダでの緑化、環境に配慮した製品・商品の優先的な購入、清掃美化活動が多いほか、ビオトープづくりや里山・里海の保全活動等の自然に関わる活動への興味も高いことがわかりました。

4. 10. 3 活動に参加しない理由

○区民・外国人

(単数回答)



環境に関連した活動に参加しない理由は、参加・実施するための情報がないこと、時間がかげられないことが主な理由であることがわかりました。

4.10.4 環境に関連した活動の参加者を増やすためには

○区民

(自由記述)

カテゴリ	抽出数
積極的なピアール活動 (地域のコミュニティを活用)	103 (22)
イベントの企画 (親子参加型のイベント)	49 (23)
環境教育	22
学校との連携	11
その他	73
合計	258

とくに多い回答は、「もっと積極的にピアールすべき」といった内容であり、その中でも回覧板や自治会、町内会を經由して告知するべきとの回答が多くみられました。

次いで、イベントをすれば人が集まるという回答が多く、その中でも「子どもと一緒に参加できるイベント」を望む回答がとくに多くみられました。

長い目を見た場合、環境教育を実施することで、将来的に参加が増えるのではないかという回答が多くみられました。

※区民回答人数：359人（有効回答数：215回答）

【回答の一部を抜粋】

「子供の場合は学校や家庭での教育、といったことを通して、環境への配慮が普通に自然に行われるのが理想だと思います。」（50歳代 女性）

「情報提供をもう少し積極的にしていただけたら、と思います。区報など、区の情報を手にとる機会がありません。どこにあるのかも…？」（40歳代 女性）

「コミュニティやその形成との連携が重要なように思います。」（20歳代 男性）

「参加しやすいイベント型の活動が広報みなとや掲示板に告知されれば行くかもしれない。」

（30歳代 女性）「回覧板にプリントを付けて、目につきやすいようにしてほしい。」（50歳代 女性）

4.10.5 参加または主催している環境に関連した活動

○区民

(自由記述)

活動	抽出数
清掃活動	18
グリーンカーテン	1
ファシリテーターとしてまちおこし	1
芝浦にて観察会	1
寄付	1
幼稚園にてWWFの啓発活動	1
運河の散策	1
世界のエコ活動の事例紹介（社内活動）	1
再開発にともなう植栽計画の検討会に参加	1
田んぼ活動	1
こどもの内部被曝を守る会	1
高輪公園で緑化推進運動への協力	1
合計	29

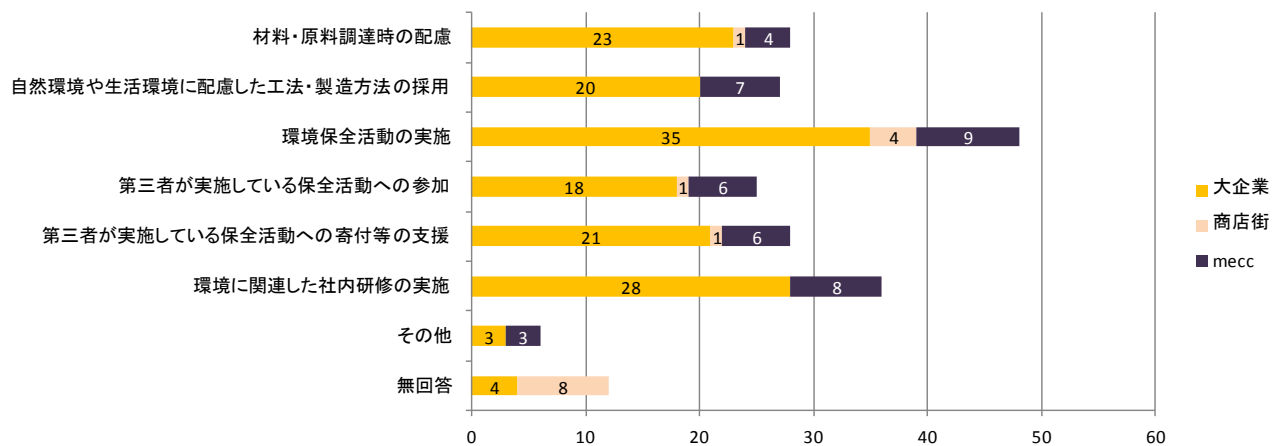
地域や会社の清掃活動が多くを占めましたが、ファシリテーターとして活動する方や観察会を実施する方などの回答を得られました。外国人からの回答はありませんでした。

※区民回答人数：359人（有効回答数：29回答）

4.11 事業者における活動状況

4.11.1 生物多様性の保全のために取り組んでいること

(複数回答)



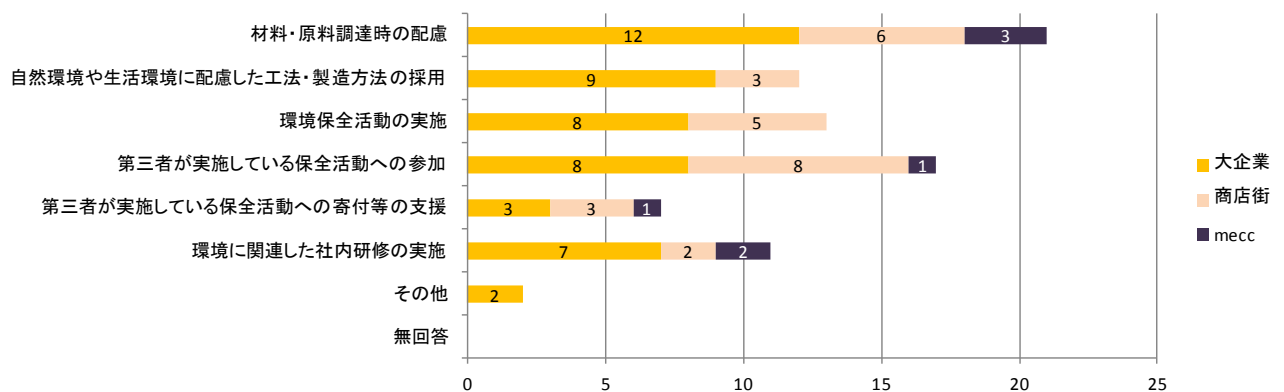
大企業回答数：54 法人
 商店街会長回答人数：23 人
 mecc 回答数：11 法人

ほとんどの事業者が何らかの活動をしており、最も多かったのは、環境保全活動の実施でした。また、無回答であった事業者は12社で、とくに取り組みをしていない事業者といえます。商店街では、15の商店街のうち半数にあたる8の商店街が無回答で、取り組みがされにくいようです。

※以下、mecc:みなと環境にやさしい事業者会議

4.11.2 生物多様性の保全のためにこれから取り組みたいこと

(複数回答)

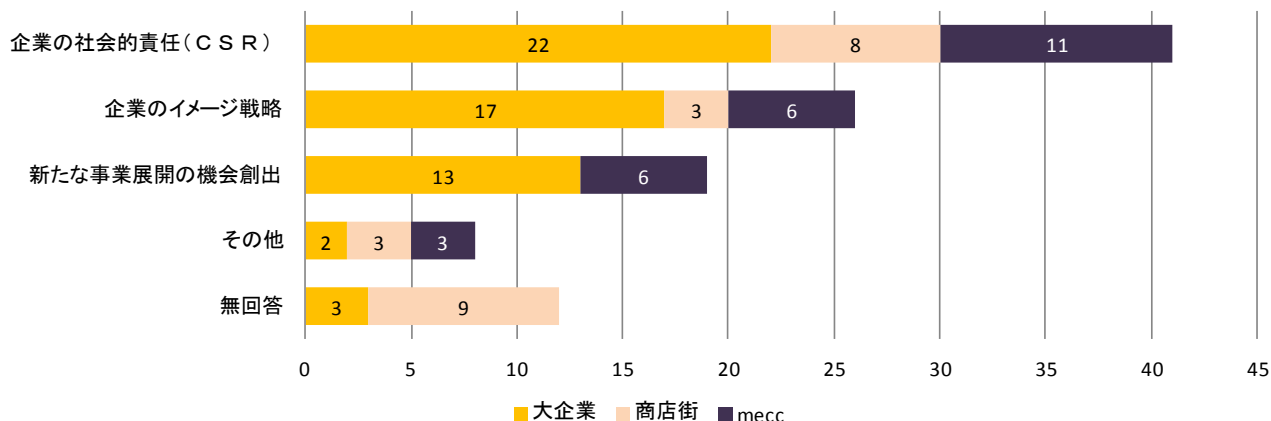


大企業回答数：54 法人
 商店街会長回答人数：23 人
 mecc 回答数：11 法人

今後取り組みたいこととしては、材料・原料調達時の配慮が最も多く、次いで第三者が実施している保全活動への参加でした。今後の取り組みの希望については、事業者の区分に関わらず、多岐にわたる分野に対して関心がありました。

4.11.3 取り組みの動機

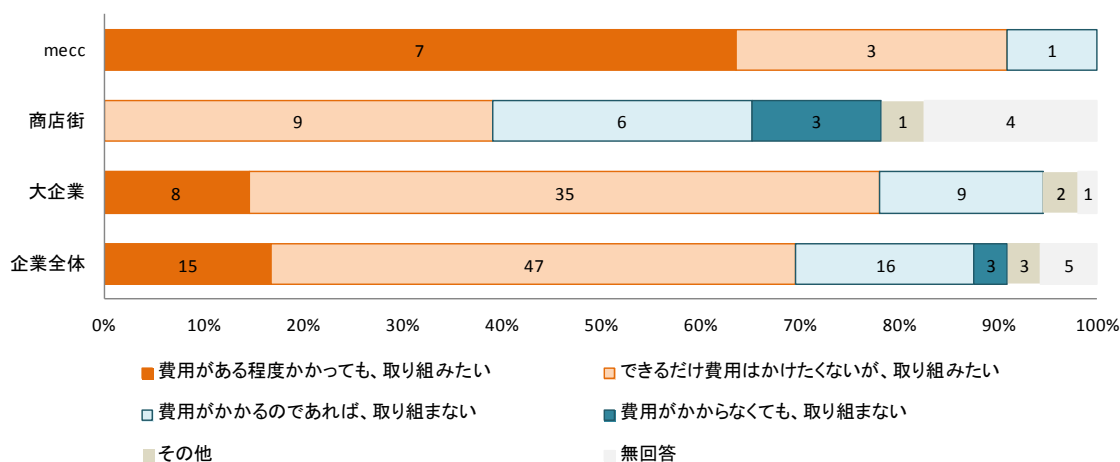
(単数回答)



取り組みの動機としては、企業の社会的責任がいずれの事業者の区分においても最多でした。

4.11.4 取り組みへの姿勢

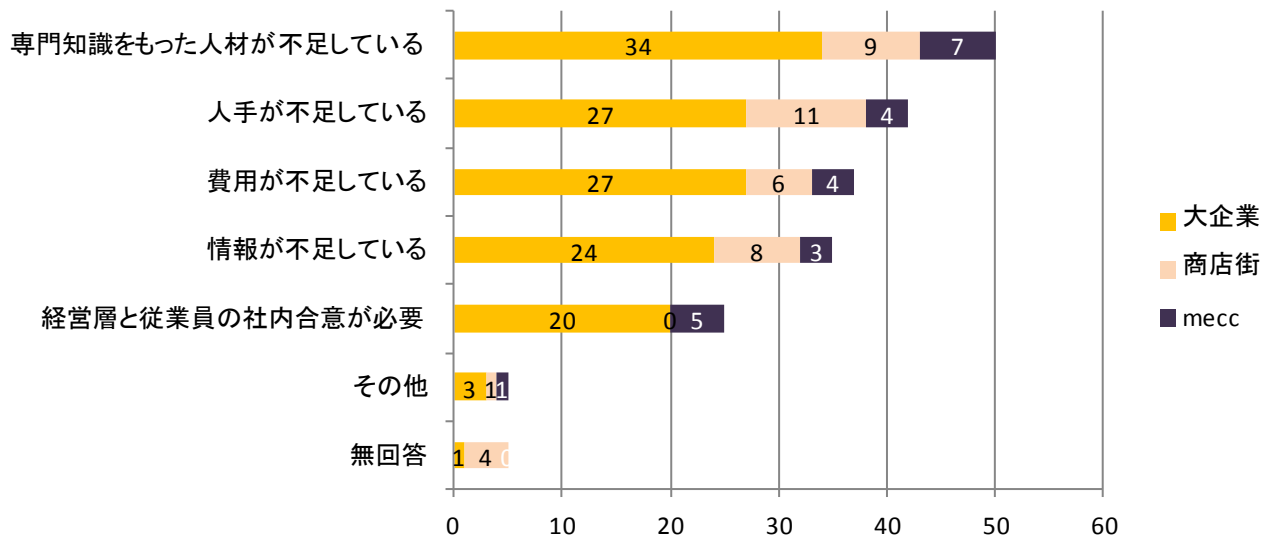
(単数回答)



生物多様性の保全のための取り組みに関して、「費用がある程度かかって、取り組みたい」、「できるだけ費用はかけたくないが、取り組みたい」といった積極的な姿勢である事業者は、全体で約7割でした。「費用がかからなくても取り組みない」はごく少数で、かけられる費用が取り組みを左右すると言えます。

4.11.5 取り組みにおける課題

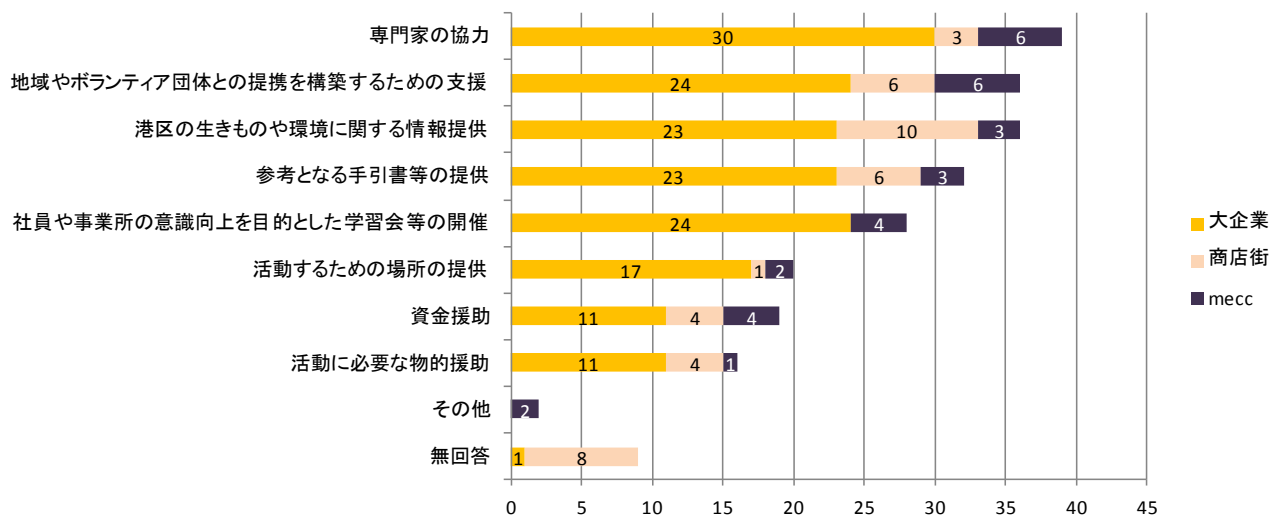
(単数回答)



取り組みにおける課題は、専門知識をもった人材の不足や人手不足など多岐に渡りました。

4.11.6 必要な支援

(複数回答)

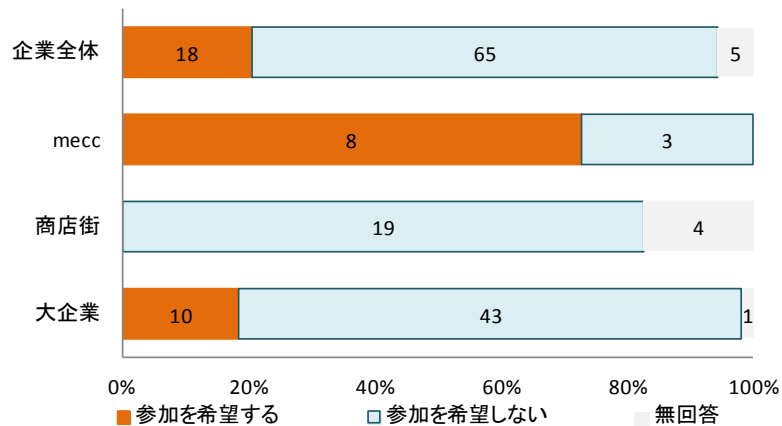


大企業回答数：54 法人
商店街会長回答人数：23 人
mecc 回答数：11 法人

生物多様性の保全に関わる取り組みを進めるにあたって必要な支援は、多岐に渡って求められています。なかでも、専門家の協力や港区の生きものや環境に関する情報提供、参考となる手引書等の提供が多く、知識や情報の不足を補うような支援がとくに求められています。

4.11.7 ピーアールの希望

(単数回答)



取り組みについてのピーアールする場への参加の希望は、事業者全体で約2割でした。

4.11.8 ピーアールしたい取り組み

(自由記述)

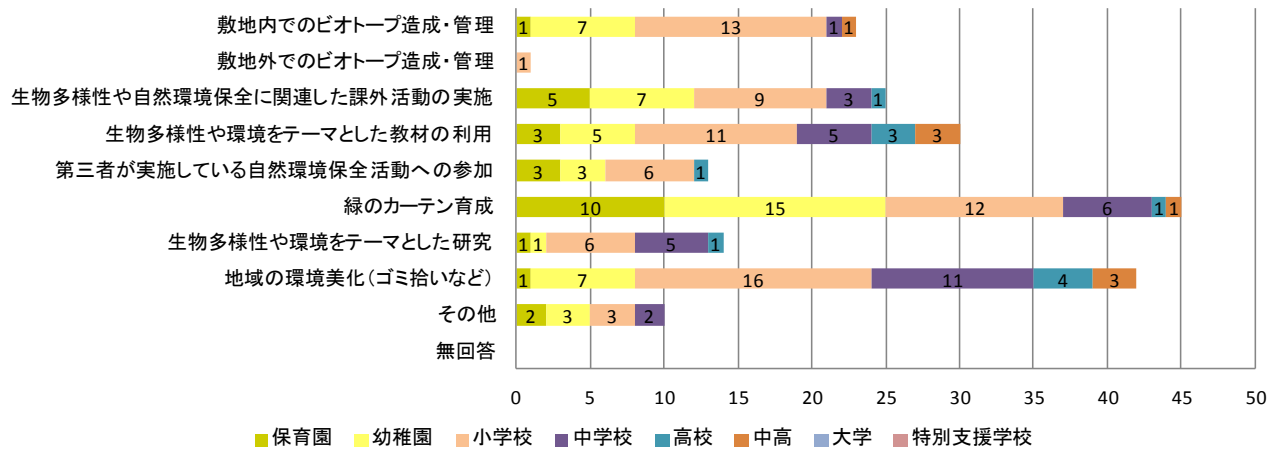
ピーアールしたい取り組みとしては、次のようなものがありました。

- 屋上緑化
- 重要種保全の取り組み
- カーボンオフセットの取り組み
- 事業所内外での啓発活動
- レインフォレストアライアンス認証取得
- 環境負荷の低減
- JBIB など他企業との連携
- NPO などとの連携
- 産業廃棄物の適切な管理
- 生物多様性保全事業への積極的参加
- 地域固有野菜や文化の保全
- コミュニケーションやネットワークなど技術支援
- 生物多様性の高い事業地
- 港区内で生物などのモニタリング調査を実施
- 学校ビオトープの整備
- 売り上げに応じた環境事業への還元
- 生物多様性評価ツールの紹介
- 生物多様性に配慮した水質浄化システム
- 情報発信
- 生物多様性に配慮した都市デザインの提案

4.12 教育機関における活動状況

4.12.1 環境の保全のために取り組んでいること

(複数回答)

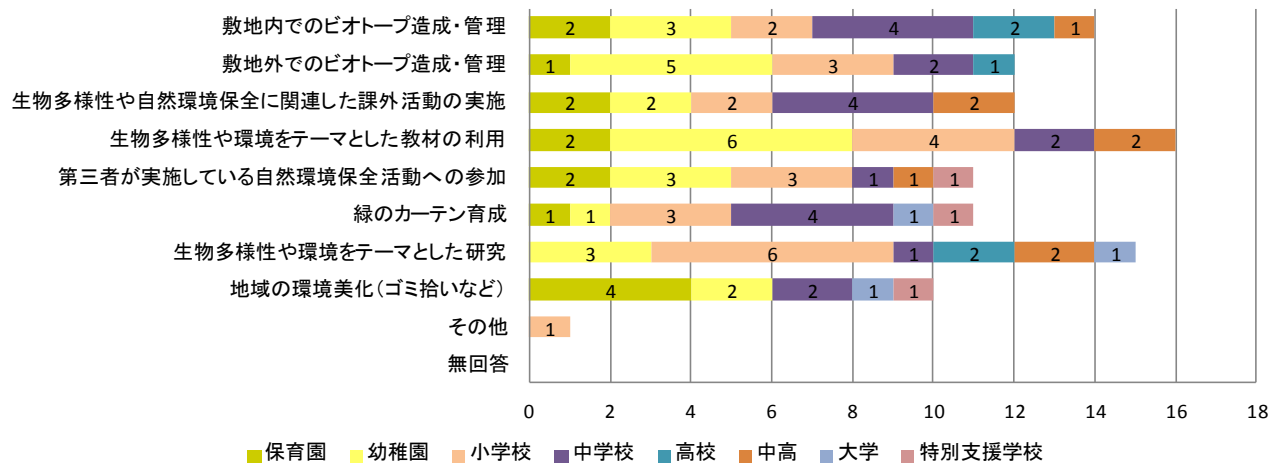


保育園回答数：12園 幼稚園回答数：22園 小学校回答数：19校
 中学校回答数：12校 高等学校回答数：4校 中高一貫校回答数：5校
 大学回答数：2校 特別支援養護学校回答数：1校

教育機関が環境の保全のために取り組んでいることとしては、緑のカーテンの育成、地域の環境美化活動が多くみられました。

4.12.2 これから取り組みたいこと

(複数回答)

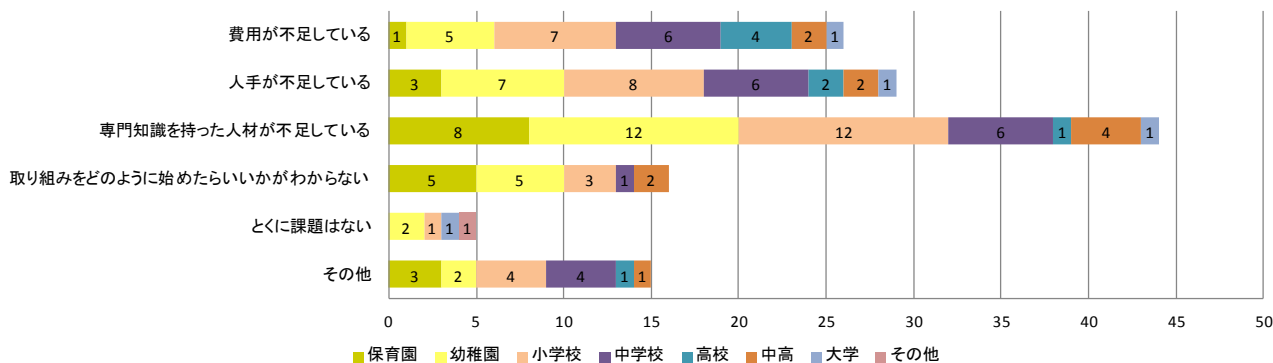


保育園回答数：12園 幼稚園回答数：22園 小学校回答数：19校
 中学校回答数：12校 高等学校回答数：4校 中高一貫校回答数：5校
 大学回答数：2校 特別支援養護学校回答数：1校

これから取り組みたい活動としては、生物多様性や環境をテーマとした教材の利用、生物多様性や環境をテーマとした研究が多くみられました。

4.12.3 取り組みにおける課題

(複数回答)

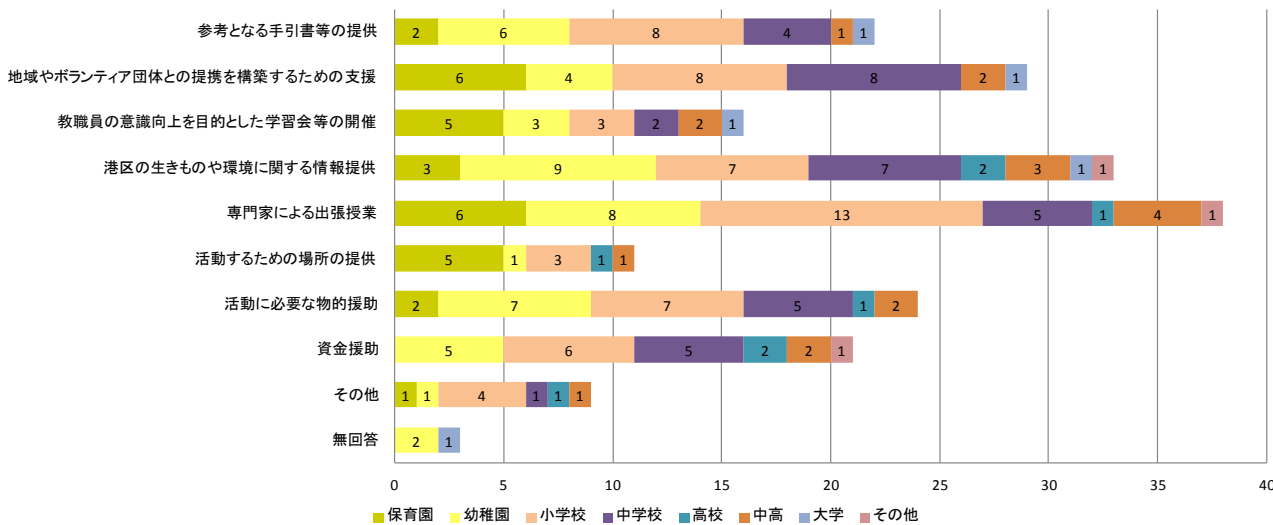


保育園回答数：12園 幼稚園回答数：22園 小学校回答数：19校
 中学校回答数：12校 高等学校回答数：4校 中高一貫校回答数：5校
 大学回答数：2校 特別支援養護学校回答数：1校

取り組みにおける課題としては、専門知識をもった人材の不足が最も多くみられました。「その他」では、とくに「時間がない」という趣旨の回答が多くみられます。

4.12.4 必要な支援

(複数回答)

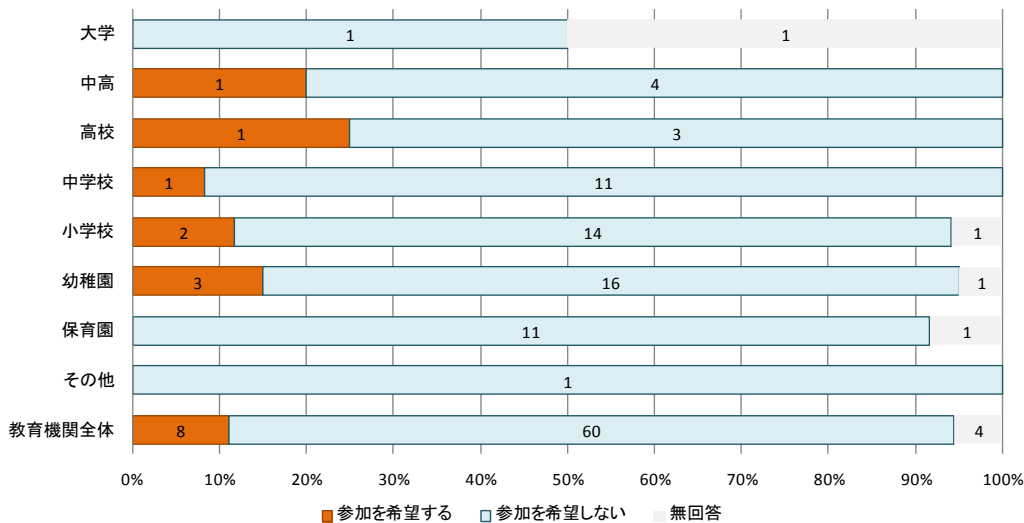


保育園回答数：12園 幼稚園回答数：22園 小学校回答数：19校
 中学校回答数：12校 高等学校回答数：4校 中高一貫校回答数：5校
 大学回答数：2校 特別支援養護学校回答数：1校

具体的な要望としては、「専門家やアドバイザーのリストの作成」、「専門家やアドバイザー・出張授業等の依頼システムの構築」、「ビオトープ造成（改築）に関わる費用の援助」、「ビオトープの造成に関する専門家の派遣」、「地域の身近な自然と触れ合える場所に関する情報提供」等がありました。

4.12.5 ピアールの希望

(単数回答)



取り組みについてのピアールする場への参加の希望は、教育機関全体で約1割でした。

4.12.6 ピアールしたい取り組み

(自由回答)

21の教育機関から回答を得られました。以下にその一部を抜粋します。

生態系を学び、生物多様性を理解しその保全に取り組むこと、また環境の意義を学ぶことは、体験を伴って初めて生涯身につき、かつ活き活きとした学びとなる分野です。

通常の授業では、なかなか腰をすえた取り組みができないもどかしさを感じていました。本校では、学校改革の一環として、理科教育の充実を現在図っています。昨年度より通常の授業以外で「サイエンティストの時間」を設け、毎週1回実験や観察を行う授業をスタートさせました。

ここでは、物理・化学・生物・地学の理科分野の実習を行っています。屋外実験場での動植物の観察会では、生徒たちは都心とは思えない多様な生物との出会いに感嘆の声をあげています。また、実験池や田んぼの池の水を汲んできてのプランクトンの観察もまた、水の環境の豊かさを目の当たりにする機会となっています。

次年度より、中学3年生の選択者による「科学的探究活動実施クラス」が始まります。

このクラスの生徒は、物理系と生物系の各班に分かれ1年間を掛けて各自のテーマにそった内容の継続実験に取り組む予定です。生物班は、細胞レベル研究班と個体レベル研究班に分かれて活動する予定です。

フィールドワークとして、本校の屋外実験場の動植物と水・土壌の環境の研究、弁慶堀にて継続した生物観察会の実施を考えています。また、このクラスの実習旅行では、西表野生生物地調査隊を編成し、普段生活している環境とは全く違った離島での生物調査を行う予定です。

水の環境については、XXXXXXXXXX先生、田んぼや畑に関しては、XXXXXXXXXX先生、土壌関係に関しては、XXXXXXXXXX先生、XXXXXXXXXX先生にご相談しながら実施に向けて準備を重ねているところです。

ビオトープは池だけでなく、みかん類の木やツツジ、アベリアなども植え、蝶を呼び込んでいます。隣のレインボー公園、浜辺でもショウリョウバッタ、オンブバッタなどを見付けて飼育しています。

畑では夏野菜、サツマイモ、緑のカーテンなど栽培活動を通して、自然とのかかわりを深めています。今年はしませんでした、昨年一昨年は稲作も行い、お台場産のコメを食べることもできました。稲わらを使ってケースや正月飾りを作ったりもしました。自然のものは捨てるものがない。もったいないということを学ぶこともできました。

1. 年間3回の地域清掃を地域住民、地域企業、役所とともに取り組んでいる。(とくに地域の企業と共に行うことに意義を感じている)
2. [REDACTED]とともに地域の運河の生き物や水質等について4年生を中心に学習を進めている。
3. 5年生を中心に[REDACTED]を活用し、米作りを行っている。また、わらを活用し、6年生では「わらじ」を作成し、旧箱根道を歩く活動を行っている。」

- ・星出彰彦宇宙飛行士が、地球に持ち帰った宇宙ケヤキを育てています。
- ・山崎直子宇宙飛行士が、地球に持ち帰った宇宙カボチャ、宇宙アサガオを育てています。
- ・山崎宇宙飛行士には、ご講演いただきました。
- ・ソーラーパネル、雨水利用、屋上緑化、グリーンカーテンなどを備えたエコスクールです。」

すぐ隣りに有栖川公園があります。木々や草花がとても豊かです。

秋には木の実を拾いに行ったりしますが、枝を切った時などの枝などを、保育の材料として使ったり出来るといいなあと思っています。

木の丸太や枝で、園庭の整備もしたいと思っています。そうした廃材などを提供してもらえると、ありがたいです。

4.13 小学校 5 年生における自然との関わりや意識

4.13.1 好きな遊び

(自由記述)

ドッチボールやキャッチボールなどを含むボールを使った遊び、缶けりなどの鬼ごっこが多く抽出されました。また、木登りや昆虫採集などの自然あそびも比較的多くの割合を占めていました。

テレビゲームなどの電子機器を用いたゲームも人気がありますが、それよりも屋外で体を動かすことが好まれるようです。

カテゴリ	抽出数
ボールを使った遊び	561
鬼ごっこ	345
自然あそび	159
電子ゲーム	107
そのほか	527
合計	1699

※児童回答人数：822 人（有効回答数：810 回答）

4.13.2 これまでに体験したことのある自然体験とこれからしてみたい自然体験

(複数回答・自由記述)

これまでに体験したことのある自然体験とこれからしてみたい自然体験について、選択肢に対する回答数は下表のとおりです。

なお、「またしたい」は「これまでにしたことがある」と「これからしてみたい」の両方に○を付けた場合の回答者数を示します。

選択肢	これまでに したことがある	これから してみたい	またしたい
虫採り	591	77	37
植物を使った遊び	476	186	33
野鳥を見たり、野鳥の声を聞くこと	516	160	35
木登り	586	113	46
泥んこ遊び	534	93	26
海や川で貝をとったり魚をつったりすること	555	149	67
海や川で泳ぐこと	660	56	58
落ち葉を使った遊び	510	139	19
夜空いっぱいに輝く星をゆっくり見ること	484	226	48
キャンプ	485	231	53
山登り	734	18	49

※児童回答人数：822 人（有効回答数：821 回答）

これからしてみたいこととの記述回答としては、下表のような結果が得られました。

釣りや山登り、カヌーなどのアウトドアスポーツが最も多く、次いでスケートボード、バンジージャンプなどの屋外スポーツや、ハイキングや無人島生活、探検などの自然の中で遊んだりのんびりすることが多くなっています。

遊びの内容	抽出数
アウトドアスポーツ	52
スポーツ	33
自然の中で遊んだりのんびりすること	32
友達と遊ぶこと	29
自然を利用して遊ぶこと	25
動物の観察やふれあいをすること	20
アトラクション・遊具で遊ぶこと	17
自然の物を使って工作すること	16
昆虫などを観察したり採集すること	15
農林業	12
旅行すること	10
山や森林で遊ぶこと	10
そのほか	73

※児童回答人数：822人（有効回答数：333回答）

4.13.3 港区で大切にしたい自然

(自由記述)

港区で大切にしたい自然としては、有栖川宮記念公園や芝公園といった身近な公園が最多で、抽出数の約5割を占めました。次いで、八芳園や三菱開東閣などの古くからある民間緑地がありました。また、守りたい場所はない、わからないといった回答も多くみられました。

区分	抽出数
公園	439
庭園・私有地	122
学校	54
なし・わからない	42
概念	41
台場	39
大木・樹木	39
海	22
運河	20
家	18
地域	11
社寺	9
幼稚園・保育園	6
ビオトープ	2
屋上緑化	1
そのほか	11
合計	876

※児童回答人数：822人（有効回答数：760回答）

○大切にしたい理由

木や草がたくさんある、生きものがたくさん住んでいる、などの動植物が多いことが最も多くあげられました。こうしたなかには、港区は都会なので今ある自然を残したい、生きもののすみかを残したいといった意見も多くみられました。

また、よく遊ぶところだから、木がたくさんあって楽しいからなど、遊び場として大切であることが多く挙げられています。木の多い場所や池のある場所が楽しいというように、自然の中で遊ぶことに充実感があるという主旨の回答も多くみられました。

芝浦地区の児童からは、運河や海を大切にしたいという意見がとくに多く、その理由には地域のシンボルであることのほか、ゴミが多くて汚いことを改善したいという声が目立ちました。

4.13.4 20年後どうなっているか

(自由記述)

20年後、港区はどのようになっているかについての回答を、生物多様性に対してポジティブまたはネガティブな未来予想に分類すると、下表のようになりました。生物多様性にとってポジティブな未来予想では、自然の増加、ゴミ問題の解消等、環境問題の解決にかかわる回答が多くみられました。ネガティブな未来予想では、自然の減少、開発の進行、環境問題の悪化に関わる回答が多くみられました。総合的には、生物多様性にとってネガティブな未来予想が、ポジティブな予想よりも大きく上回りました。

大分類	ポジティブな未来予想	ネガティブな未来予想	ネガティブ、ポジティブの混ざった予想	どちらともつかない予想	生物多様性には関係ない予想
自然	203	229	7	3	0
生物の変化	0	10	1	0	0
海・運河・川	13	9	0	0	1
温暖化	7	31	2	0	0
大気汚染	5	33	1	0	0
ゴミの問題	12	24	1	0	0
環境問題	3	7	1	0	0
環境に配慮した活動	6	0	0	0	0
環境問題・住環境	0	1	0	0	0
住環境	11	8	0	0	21
学校・塾	2	1	0	0	5
遊び場	10	23	0	0	13
遊び	1	2	0	0	1
街	1	7	0	0	11
開発	45	141	3	3	83
科学技術	21	30	1	0	35
人口	9	11	1	0	11
少子高齢化	3	7	0	0	6
外国人	0	2	0	0	2
ひと	5	3	0	0	10
社会	0	1	0	0	3
交通	6	14	1	0	13
電気	3	2	1	1	1
経済	5	4	1	0	9
政治	0	2	0	0	10
文化	1	1	0	0	2
観光	3	1	0	0	1
自然災害対策	2	0	0	0	0
荒廃	1	6	0	0	4
シンボル(ランドマークなど)	1	1	0	0	4
その他	3	3	0	0	7
不明	11	5	1	0	50
変化なし	0	2	0	0	39
未記入	0	0	0	0	39
分からない	0	0	0	0	7
合計	393	621	22	7	388

※児童回答人数：822人（有効回答数：783回答）

4.14 中学校2年生における自然との関わりや意識

集計中